

第11分科会

「社会形成能力」

下松支部

実践の豊かさで先見性を学ぶ

私は、本分科会において運営責任者という大役をいただいた。進行など不安な点はいくつかあったが、昨年度の埼玉大会に参加した経験が大いに生かされたと感じている。

グループ、全体協議ともにスムーズかつ熱心に行われたのは、「三年次を踏まえた研修の継続」「校長の役割・指導性に着目した研修」など大会運営方針や分科会における二つの視点が明確に示されていた結果だと振り返る。

視点①「社会の発展に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育の推進」の発表では、体験的な活動を位置づけた教育課程について、地域との連携や社会貢献をめざした取組が紹介された。教育課程の中に福祉活動を位置づけ、社会参加意識を育てる事例、ESDの手法を取り入れて、よりよい未来をつくっていくという事例など、注目すべき取組であった。校長として、学校内外への説明責任を果たし、橋渡しをすること、また、授業づくりに積極的にいかかり、児童一人ひとりを大切にしたい学校づくりを進めることの大

切さを改めて考えさせられた。

視点②「自立と協働の心を育むキャリア教育の推進」の発表では、「小中・地域連携によるキャリア教育の推進」をテーマに掲げ、地域の中心産業である農業、具体的には大根やりんごの生産から販売までを実体験として学ばせる現実の経済生活との接点を意識させた取組や、一町・一小・一中学校の強みを生かした小中連携の取組は、大変参考になった。前々回の三重大会で示されたキャリア教育における課題、評価の在り方や中学校への接続の課題解決に迫る内容であった。また、取組の成果が分かるように児童の変容を数値化されて提示するなど成果を見通した校長としての高い戦略性を感じた。



ある間に「ふるさと山口」で開催されたことは幸せであり、誇りに思う。

(米川小学校 溝部哲正)

全連小山口大会を通して

第12分科会

「自立と共生」

萩・阿武支部

つなぐ力を発揮していく

「よろしくお願いします。」の挨拶で初対面であることが感じられないくらいすぐに打ち解けることができ、コミュニケーション能力は、さすが校長と言わざるを得ない。

第十二分科会は、研究課題「自立と共生を図り、実践的な態度を育む教育の推進」の解明に向けて、子どもたちの自立を図る特別支援教育の推進と「持続可能な社会」をめざした環境教育等の推進について、二校の事例発表があった。

福島地区校長会からの発表の冒頭に、「学校は復興の最大の拠点」という言葉があり、学校の果たす

役割の大きさを改めて感じさせられた。また、校長の役割は、組織を動かすことであり、校長が校外に対しても最大の特別支援コーデ



イネーターとしての「接着剤」となることの責務と必要性を感じさせられた。次の岡山県竹枝小学校の発表では、地域と連携し、地域の特色を最大限に生かす地域協働による学校づくりのよさを知り、校長としての役割は連携と情報発信、そして学校の方向付けをしていくことの大切さを学んだ。

その後、二つの事例を基にして、各グループにて、それぞれの有効な取組や疑問、改善すべき点について協議し、互いの情報交換にもなり、有意義なものとなった。

参加後、特に心に残ったのは事例発表にあったように、地域協働で幼保小中連携した取組をしていくことが、本校のよさを引き出していく上で参考になると感じたので、是非取り組んでいきたいと思う。また、特別支援教育にとどまらず、組織を動かし、活性化させていくために、校長自らが接着剤としての「つなぐ」力をより発揮していくことが必要であると感じた。

分科会全体の雰囲気は、どのグループも熱気あふれ、参加者が目を生き生きと輝かせて協議する姿が見られた。この活力ある姿こそ、校長として、学校を運営していくために必要な資質ではないかということも感じられた。今回の貴重な経験を今後の学校経営に生かしていきたいと思う。

(多磨小学校 池永郁夫)